特別企画
インタビュー

アンチエイジングアワード2014受賞記念

受賞者：
桂　文枝

松尾　通（会長）
中原悦夫（常任理事・編集委員長）

●日時：2014年5月17日（土）
●場所：ウェスティンホテル大阪

襲名披露公演

松尾　桂　文枝さん，2014年度アンチエイジングアワード受賞おめでとうございます．アワードは今回が8回目になりました．選考基準は，まず，いい歳の重ね方をしていること，二つ目は，社会的に知名度が高く活躍中であること，三つ目が，心身ともに，そして歯科的にも健康であることが条件です．

桂　ありがとうございます．

中原　師匠，本当におめでとうございます．本日はインタビューの進行を務めさせていただきます．よろしくお願いいたします．

桂　よろしくお願いします．

中原　3月8日の大阪フェスティバルホールでの「三枝改メ六代桂　文枝襲名披露公演（大千穐楽）」のときに，滝廉太郎のテーマで創作落語「熱き想いを花と月に馳せて―瀧廉太郎物語」を演じられ，私ども合唱団もいろいろお世話になりました．ありがとうございました．

桂　六本木男声合唱団倶楽部ですね．先生のような歯医者さんは1人だけですか．

中原　いえ，歯科医は意外と6名ぐらいいます．医者は全部合わせると20名ぐらいです．

Bunshi Katsura

- 本名は河村静也．昭和18年7月16日生まれ，大阪府出身．血液型O型．
- 昭和41年，関西大学在学中に，桂小文枝（故・五代目桂文枝）に入門．昭和42年，ラジオの深夜番組に出演し，若者に圧倒的な支持を得る．昭和44年にテレビの司会に抜擢されてから，数々のレギュラー番組を担当する．昭和56年，「創作落語」を定期的に発表するグループ・落語現在派を旗揚げし，現在までに230作以上の作品を発表．二度の文化庁芸術祭大賞，芸術選奨文部科学大臣賞などを受賞し，平成18年秋には紫綬褒章を受章した．
- また平成15年第6代目の上方落語協会会長に就任．大阪の文化振興に貢献したことにより大阪文化賞特別賞を，平成19年には菊池寛賞を受賞し，秋の園遊会に招待された．
- そのほか国内外で独演会や講演会を開催するかたわら，19人もの落語家や，タレント・俳優の育成に励み，大学で特別講義を担当するなど教育・文化活動にも力を注いでいる．平成24年7月16日六代桂文枝を襲名．

桂　医者は歌好きですか．

中原　好きですね．あと，弁護士が多いですね．ですから，たとえ医療トラブルが起きても，あの合唱団の中で全部解決できます．

桂　医者と弁護士を比べると，高いほうと低いほうの声はどうですか．弁護士のほうが高い声が多いんですか．

中原　目立ちたがり屋の団員は，旋律を歌いたがりますので，大体テノール1のほうに回りますね．旋律を歌っていないと生きている価値がないとまで言っている弁護士もいます．師匠も中学校のとき合唱部へ入られていたとか．

桂　小学校6年生のときと中学校1年生のときです．パートは最初はテノールで，声変わりしてからバスです．まあ歌は好きですから．前々から三枝（成彰）先生と一緒にいろいろやらせていただきました．三枝（さえぐさ）三枝（さんし）ということです．三枝先生はそのまま三枝やけど，最後に僕は文枝になってしまいました．

中原　今回の「瀧廉太郎物語」は，いわゆる笑わせるというよりも，何かこう歴史に留めたという印象を受けました．オペラが，戦争や悲劇を芸術として歴史に留めるのと共通するものがあると感じました．また，滝廉太郎が，ほんのわずかな生涯で生み出したものが，100年たってもこれだけ日本に残っているというのは凄いことです．

桂　100年残せるというのに自分も憧れます．滝廉太郎が日本の音楽を切り開いたわけですからね．新しいことをやるというのは大変だと思いますし，また後世に残したということに感動します．滝廉太郎の生涯は短かったですが，やったことは非常に大きいものでした．

中原　大きいですね．大千穐楽の落語の一節は彼の物語になっており，短い人生の中の苦悩がきちんと表現されていました．

桂　そうですね．間に合唱が入って，そのたびに高座が移動するというのも初めての試みでした．

落語の歴史

中原　上方落語は昔から派手というか，サービス精神が旺盛なんでしょうか．

桂　大阪人というのはサービス精神というのが基本にありますね．対して，東京の落語というのは，人が地方から出てきて密集しているんで，いろいろな地方の出身者でもわかるように作られている落語なんです．ですから，やはり義理とか人情．特に江戸は侍文化ですね．ところが大阪は商人（あきんど）とか町人文化ですから，みんな楽しく，おもしろおかしく暮らそうというのが元になります．関西以外の人はあんまりいないですから大阪弁で通じるということになります．大衆娯楽ですから，いつも笑ってもらおうと考えています．笑わすための大阪弁が，みんなにわかるからおもしろいというような感じですね．

中原　サービス精神といいますか，その前に大阪をこよなく愛されていますね．たとえば，師匠の「大阪レジスタンス」を拝見すると，落語に思想が入り込み，濃いといいましょうか．

桂　そうですね．やっぱり落語というのは，何かテーマがないと時代を超えて残っていかないと思います．ただ笑わせるだけでは，まだ駄目なんです．そこが漫才とかコントとかと違うところだと思うんです．

中原　落語の歴史はどういうものですか．

桂　安楽庵策伝という人が落語の原形を作ったということで400年とされています．その後，落語家みたいな，人前でおもしろいことをする人が現れて，神社の境内とかでやったんですが，雨が降ったらできないので，小屋がけでやり出して220～230年というところです．不思議なことに東西同じような時期から始まっているんです．われわれのようなしゃべることを生業とする落語家が，高座の上で座布団に座ってやるというのは200年ちょっとということになります．ただし，400年前に書かれたものを継承している部分もあるということです．

中原　台本は昔から落語家の方が書かれてきたんですか．

桂　初めのころは，医者が書いたり，素人が寄り集まったり，いろいろな人が書いていました．そのうち書いた医者が自分自身でしゃべったりとか，みんなが寄り集まってやっていました．次にしゃべる専門の者が出てきて，そういう人たちも自分で書くようになり，昭和に入ってからは落語作家と呼ばれる者が出てくるようになります．

もともと舞台でやっていた者が自分でこうやろうああやろうとか，こう演じようとかいうのは，明治になってからです．それは古典として今もずっと残っています．やはり落語家が作るというのが一番いいんですね．実際にここは受けたとか受けなかったとかいうのがわかりますから，作り変え，作り変え，今度はそこを広げようと

か抑えようとかするんです．ただ，落語家が作ると世界が限られてくるので，いろいろな方が作ったものを，また落語家が自分なりに作り変えています．近年は，上方落語協会でも落語台本を募集しています．

中原　一般の方を対象にですか．

桂　そうですね．本当に北から南から皆さんに参加していただいております．岐阜では私が提唱して，安楽庵策伝が生まれた場所ということで，「全日本学生落語選手権」をやり，住んでいる池田市では，「社会人落語選手権（社会人落語日本一決定戦）」をやり，学生の落語，社会人の落語も結構盛り上がっております．社会人落語のほうはやはりそれぞれが作った創作落語が優勝しています．それが私の狙いでもあったんです．

なかには医者であったり元警官であったり，今年はサラリーマンでしたけれども，その前は学校の先生だったりとか，そういう人が生活を通じてできたものをネタにしてやっている，そんな感じですね．

中原　そういう募集したネタを，優勝したら師匠が演じるということはあるんですか．

桂　募集したネタで演じるということはありました．それをずっとやっているというのは私はないんですが，募集した中のものをずっと演じている落語家もおりますし，結構ポピュラーになってきているというか，いろいろな師匠が演じているというのもありますね．ですから，1作でも2作でも残れば，それはわれわれの財産になって先の時代へ渡すことができます．

中原　落語のネタに著作権はあるんですか，

桂　著作権はないんです．ないからこれだけ広がって残ってきたということですね．歌のように著作権があると，いろいろな人が演じることができないことになります．落語は元のネタを時代とともに形を変えていくので残ってきたというところがありますね．

中原　100年先まで残る落語には，何が必要なのでしょうか．普遍性ですか．

桂　やっぱり日常性と普遍性ですね．たとえば親子であるとか，兄弟，夫婦，恋人とか．そういうようなものが残っていきますね．また，お医者さんの落語が多く残っていますよ．大体はやぶ医者ですけど．そうでないと落語にならないですからね．権威ある人を笑うというのが基本ですので．侍がへまをするとかね．歯医者さんは，江戸時代にもあったんでしょうけれども，今みたいな技術はなかったでしょうから，あまり出てこないですね．お医者さんは生活に密着していますから．もちろん名医も登場しますけど，大体はやぶですね．お医者さんというのは，医者へ行くというより，医者を呼ぶという感じのほうが話は多いですね．

中原　「先生呼んでこい」みたいな感じが多いですね．われわれはもっと出ていかなきゃいけないですね．

松尾　現在，上方落語協会の会長でいらっしゃいますね．会員は何人ぐらいいらっしゃるんですか．

桂　250名ぐらいですね．大阪は，上方落語協会と，無所属，いろいろ合わせて700人ぐらいはいると思います．対して江戸のほうは，落語協会，落語芸術協会，圓楽一門会，それから立川流ですね．ですから四つと，無所属です．落語協会さんの人数が一番多く，その次が上方落語協会だと思います．

東京の場合，落語協会と落語芸術協会が自分の寄席を持っていなくて，末廣亭であるとかそこへ出るということですが，われわれは天満天神繁昌亭という劇場を持ってやっているというのがちょっと違うところです．

中原　大千穐楽の大阪フェスティバルホールは非常に大きな会場でしたが，落語でちょうどいい大きさの会場はどのくらいの規模ですか．

桂　所作とかね，やっていることが見えるというのは300から500人ぐらいだと思います．でも私は，大衆芸はたくさんの皆さんに見てもらうというのが必要だと思いますので，大きな劇場でやるというのも大事ですし，それはそれで楽しいですね．

生涯300席を目指して

中原　河村静也さんの時代から三枝さんの時代，そして今回文枝さんの時代に入られました．文枝師匠になるということが蝶として開花する，芸術性というものをこれから築かれていくということだと思います．ところで，幼少のころ，お父様はたしか戦病死とか．

桂　日本で銀行員でした．戦争にとられて訓練中に体を壊して亡くなったんです．母は93歳で，今も元気にしております．幼少のころを考えると，よく落語家になれたなあと思います．落語家になってからもいろいろ経験させていただいて，たとえばテレビとかマスコミの関係の仕事をして，それがあるから創作落語の道が開けていったということでしょうか．今後は心身ともに元気でいろいろな高座を務めていけたらなあと思います．

中原　今，235作（席）ですか．

桂　236席目が出来上がり，6月30日に発表いたします．今までやったことがないことをやってみようということで，初めて人様の小説を落語にさせていただきました．今回は『永遠の0』を書かれた百田尚樹さんの短編「夜の訪問者」を落語に直しました．とにかくいろいろな試みに挑戦したいですね．この間は合唱団と一緒にやりましたが，オーケストラと一緒にとか，いろいろなことをやって落語の可能性を切り開いて，後へつなげるというのが今後の仕事だと思っています．

松尾　目標は生涯何席ですか．

桂　300席です．

「新婚さんいらっしゃい！」のハプニング

松尾　文枝さんというと私はどうしても「新婚さんいらっしゃい！」のイメージが強くて，実はよく見ているんです．何か特別な思い入れがあって続けているんですか．

桂　思い入れというか，こんなに続くとは思わなかったんです．「新婚さんいらっしゃい！」というのは，その前に「いらっしゃーい」というギャグを僕がやっていたもんですから，プロデューサーが，ちょっと視聴率が悪い番組があって，つなぎで何かやりたいから君の「いらっしゃーい」というギャグをタイトルに貸してくれないかということで，「新婚さんいらっしゃい！」になったんです．ほんとは3カ月ぐらいで終わる予定だったんですが，非常に視聴率がよくて，ずっと続いて，今年で44年目になります．

どうして続いているかというと，本当に毎週毎週，今までに会ったことのないような人たちが出てくるからです．最近，44年間で初めての経験をいたしました．

新婚さんの夫婦が出てきたんですが，ご主人は72歳，奥様が73歳．高齢社会ですから，そういう夫婦は今ま

で何回かありました．私，出演者には出てくるまで会わないですし，事前の打ち合わせもないので，山瀬まみちゃんが「お名前をどうぞ」と振ったときに，「大阪から参りました」の「大阪から」と言ったときに，入れ歯がぱっとまみちゃんに向かって飛んだんです．私が見たら下に入れ歯が落ちていました．しかも，キスすると入れ歯が奥様の口に入ってくるとも言っておられました．

歯医者の先生方には，どうすれば入れ歯が飛ばないで済むか，どうすれば口の中にしっかりと入れ歯を付けられるかを，ぜひ考えていただきたい．今日はそれをお願いに来ました．

中原　出演者はオーディションか何かで公募されるんですか．

桂　ディレクター，プロデューサーがやっています．その辺のところは，いつ，どこで，どうやっているのか私は知らないんです．

松尾　今は90歳ぐらいが当たり前になってきましたから，歯の問題は実は結構深刻になってきているんです．昔は寿命が75歳ぐらいで，歯の寿命もそれでいいかみたいなことだったんですけど，今は20年ぐらい延びちゃいましたから．

桂　僕のかかっている歯医者さんも，その年でこれだけ歯が残ってるのは立派ですとか，おだててくださいます．でも，本当に，歯は大事ですからね．

松尾　ついこの間，有名な女性にお会いしたら，実は来月結婚するんです，４回目ですって言うんですね．男性の４回目はあるかもしれないけど，女性の４回目というのは僕はあまり聞いたことがないんですが…．

桂　そんなんしょっちゅうでっせ．

松尾　えー，そうですか．

桂　バツ３で，男は初婚で．女の人はラウンジみたいなとこに勤めとって，子供も４人おって，旦那さんは20代で，奥さんは40代というカップルもいました．お店，よっぽど暗かったんちゃうかと言うたぐらいです．

松尾　確かに「新婚さんいらっしゃい！」は夫婦百景みたいなもんで，いろんなカップルがいらっしゃるからね，おもしろいといえばおもしろい．

桂　前よりおもしろくなってきたのは，年の幅があるからですね．昔はバツイチとかいうのは何かこう世間に恥ずかしいというのがあったんですが，この頃は後ろめたさも何にもない．堂々としたもんです．

松尾　勲章になってきた．

桂　今は女の人も，ちょっと声かけられて，自分の好みと違うけど，男の人と別れてちょっと寂しかったからとかね，平気で言うんですよ．

中原　「新婚さんいらっしゃい！」は落語のネタにはなりませんか．

桂　ネタにはならないんですよ．落語にするとちょっと，まあ漫談だったらいいんでしょうね．出演者本人がしゃべると，それは本人のことですから嘘にはならないわけですけど，何かこう現実離れし過ぎて，僕らがしゃべると，嘘っぽくなるわけです．

中原　ネタ探しというのは常にアンテナを張っていらっしゃるんですか．

桂　アンテナを張ってやってるというよりも，そういうことに敏感なアンテナになってるから，毎日ネタが向こうから飛び込んでくるという感じですね．

中原　趣味もたくさんお持ちのようで，絵や，バイクのようなものもやっていらっしゃいますね．ウクレレも．

桂　リカンベントという自転車．ウクレレとかいろいろやりますけど，やっぱり落語が一番です．学生時代からの趣味を仕事にしましたからね．

落語の現状と今後の抱負

松尾　最近の漫才ブームといいましょうか，漫才の人がテレビにたくさん出ていますけれども，あの現象はどう思われますか．

桂　テレビというのは視聴者がザッパー（zapper）といって，チャンネルを早くかえるため，非常に短い時間で見せるということになってきました．映画のカット割りでも短く短くなってきたのと一緒で，短く笑わせるというか，出てきてすぐおもしろくないといけないため，内容よりもキャラクターで笑わせる．ですから漫才の場合はキャラが第一になってきました．オネエキャラとかああいう人たちが受けるのも，キャラがはっきりしてるからです．それと芸人同士，人のことをとやかく言うのは，それによって共通の話題ができるということでしょう．しかし，落語は，日常をほのぼのと描くというか，時間がかかる芸ですから．ストーリーですので，１分や２分で笑わせられるものではありません．どうしても現在のテレビ的ではないんですね．落語はライブのほうに皆さん足を運んでいただけるので，それはありがたいですね．われわれの芸は今のテレビにはちょっと向かないところがあります．

文枝師匠とともに（左：中原，右：松尾）

中原　そうですね．昔，三枝成彰先生に伺ったら，クラシックの世界は，まだ録音技術もない時代に，各町にオペラハウスを造ってクラシックを上演したり演奏したり，いろいろな場所でやるわけですから客は全部違うわけです．こっちの旋律をこっちにまぜて新しく発表したりとか，旋律の使い回しをやっていたそうです．録音される時代になるとそれがもうばれるのでできなくなってしまいました．落語の世界でもネタはいろいろ組み合わせるみたいですね．

桂　そうですね．寄席は，前に出た人のネタを見ながら決めることもあります．前で子供の話をしたら違う話をするとか．たくさん話を持っていないと対応できませんね．まあ，それは修行であるし．でも，話すことを仕事にするというのは非常に難しいもんです．若い人がどんどん入ってきますが，よほどの覚悟と勉強するという気持ちがないと続きません．いいかげんに入ってきたのではちょっとやれないですね．

中原　最後に，文枝師匠としての，今後の抱負をまとめていただければと思います．

桂　まずは上方落語協会の会長としての職務を全うすることです．また，１年８カ月にわたった襲名披露公演が終了いたしましたので，次の目標として，300席の落語を作ることと，若い落語家を育てることの二つを掲げました．

中原　今日は，貴重な時間をありがとうございました．今後のご活躍をお祈り申し上げます．

松尾　ありがとうございました．

桂　ありがとうございました．今回頂きました，アンチエイジングアワード賞に恥じないよう，これからも一生懸命頑張りますので，どうぞ宜しくお願い申し上げます．